

Q：JRCに加盟すると学校の多忙化に拍車がかかるのでは。

- ・ JRCは実践目標として『健康・安全、奉仕、国際理解・親善』を掲げています。そのため、特別活動に位置づけられることが多かったのは事実です。
- ・ 学校週五日制やゆとり教育により授業日数が削減されると、先ず特別活動の見直しが始まりました。授業時間数の確保が優先され、勤労生産的行事や遠足的な行事が次々に打ち切られました。更に学力低下論が追い討ちをかけたのです。JRCのことを知らないがために、

◎ JRCに加盟すると

- 1 何か特別な活動をしなくてはならないので、行事が増えるのではないか
- 2 新設の校務分掌を設ける余裕がない
- 3 担当教員の負担が増えるのではないか

という懸念が生じてしまうのです。

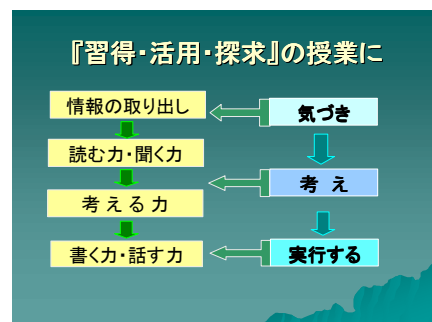
- ・ でも、確かに教員の負担は増えるかも知れません。
- ・ 何故なら、JRCに加盟することにより、自らの教育理念の足がかりを得て、今までの『教育活動』を見つめなおすことができるようになるからです。
- ・ 校務分掌の各担当が『気づき、考え、実行する』のJRC態度目標を指針にして
  - ① 『習得・活用・探求』の授業をどのように組み立てていくか。
  - ② 『人の命と尊厳を大切にする』生徒指導をどのように構築していくか。
  - ③ 『豊かな心を育む』道徳を実践的な活動にどう結び付けていくか。
  - ④ 『自主・自立』を育む特別活動の年間計画をどのように作成するか。

を考えることができます。

- ・ 例えば

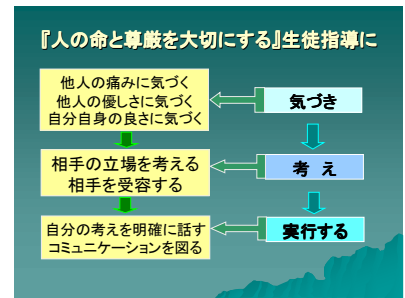
①の研修では

- ・ これからの時代に求められる学力は、自ら学び自ら『考える』学力です。
- ・ 情報を取り出して、解釈（気づき）し、自らの考え（考え）でそれを評価し、活用していく（実行する）授業を日々続けていくことが求められています。
- ・ JRCのこの態度目標を研修だけでなく、日々の教育活動全般で意識化させることによって、授業との相乗効果が上がるのです。



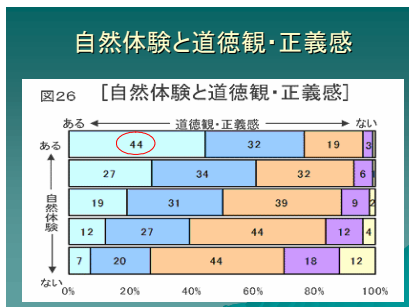
## ②の生徒指導では

- ・ 青少年赤十字とは、子どもの時から赤十字の精神に基づいて人類愛を育て、人間形成に役立てようとするものです。どの子の中にもある優しい心を具体的な行動として引き出し、赤十字の基本理念である人道を青少年一人ひとりが自分自身の価値観として身につけさせることができます。



- ・ 『いじめ』はいじめている子といじめられている子の二者間で起きているわけではありません。周りではやしたてている観衆と見て見ぬふりをしている傍観者の関係性の中で考えていく必要があります。小さいときから互いに認め合い、学び合い、育ち合う教育の中でこそ、『人の命と尊厳を大切にする』理念に裏打ちされた教育の中でこそ、『いじめ』は根絶されるのです。

## ③の道徳では

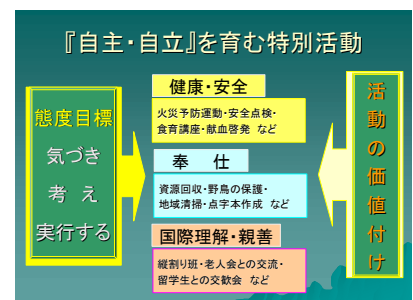


- ・ 青少年赤十字活動を推進し、人道・博愛の赤十字精神を学校教育目標の具現化に活かすことにより、児童生徒の心を揺さぶり、新鮮な感動を呼び起こすことができます。

- ・ 誰もが持っている「優しさ、思いやり」を行動に表すうちに、児童生徒は「人のために尽くすことの大切さ」を知り、学校は温かい雰囲気にも包まれるのです。

## ④の特別活動では

- ・ 「気づき、考え、実行する」という青少年赤十字の活動基盤は、常に児童生徒の内面に働き、自発性と積極性を育て、すべての教育活動に波及するものです。
- ・ 「やらされる活動」から脱皮し、児童生徒一人ひとりの自発的な活動として、ボランティアの心を育てます。ボランティアは、活動を通して自己成長の機会と捉えるところに価値があります。活動の背景にある『優しさ、思いやり』の心が重要なのです。
- ・ 外見上は同一の活動であっても、子供たち自身が「今、何をすべきか」というニーズを見つけ、自ら実行に移す活動は子供たちの感動を呼び、心を揺さぶるものとなるでしょう。



青少年赤十字は学校の教育活動そのものであり、その学校の先生が指導者となり、活動の場も主として校内にするなど、他の団体との違いはそこにあるのです。